

チャ輪斑病のアゾキシストロピンに対する感受性					
[要約] 2015 および 2016 年に県内の 24 茶園から採集した輪斑病菌の <u>アゾキシストロピン水和剤</u> (商品名 <u>アミスター-20 フロアブル</u>) に対する <u>感受性</u> を検定した結果、9 圃場で耐性菌の発生が認められる。					
佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当		連絡先	TEL:0954-42-0066 E-mail:chagyoushiken@pref.saga.lg.jp		
部会名	茶業専門部会	専門	栽培	対象	茶

[背景・ねらい]

チャ輪斑病菌において、アゾキシストロピン水和剤（商品名アミスター-20 フロアブル）を始めとする QoI 剤に対する感受性が著しく低下した耐性菌の出現が各地で問題となっている。耐性菌株率が 50%以上の圃場では実用的な防除効果は期待できないとされ、また、1 回の QoI 剤散布で耐性菌が急増することも報告されている。そこで、本県の現地茶園から採集した輪斑病菌の QoI 剤に対する感受性を明らかにし防除の参考とする。

[成果の内容]

1. 2015 年に唐津市と嬉野市の 11 圃場から採集した輪斑病菌のアゾキシストロピンに対する感受性を検定した結果、2 圃場で耐性菌株が発生している（表 1）。
2. 2016 年に唐津市、伊万里市と嬉野市の 13 圃場から採集した輪斑病菌のアゾキシストロピンに対する感受性を検定した結果、7 圃場で耐性菌株が発生している（表 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内の輪斑病防除に活用できる。
2. 秋整枝後に表層に現れた輪斑病罹病葉を検定に用いた。
3. 今後アゾキシストロピンを使用した後は防除効果を確認し、効果の低下がみられたら QoI 剤以外への変更を行う。

[具体的なデータ]

表1 県内茶園で採集した輪斑病菌のアゾキシストロビン感受性^{a)} (2015年)

地区	圃場	供試葉数 (枚)	耐性菌発 生葉率(%)
唐津市	A	10	30
	B	10	0
	C	10	0
	D	9	0
	E	7	29
	F	6	0
嬉野市	G	10	0
	H	10	0
	I	8	0
	J	7	0
	K	4	0

表2 県内茶園で採集した輪斑病菌のアゾキシストロビン感受性^{a)} (2016年)

地区	圃場	供試葉数 (枚)	耐性菌発 生葉率(%)
唐津市	A	11	18
	B	4	100
	C	20	5
	D	20	10
	E	20	0
	F	1	100
伊万里市	G	3	0
嬉野市	H	12	0
	I	4	0
	J	18	39
	K	4	0
	L	4	0
	M	20	30

a) 検定方法：現地圃場から採集した輪斑病罹病葉を室温、室内散乱光下の湿室に4日間静置し分生子を形成させ接種に用いた。水道水で8分間煮沸した健全チャ成葉を薬液(アゾキシストロビン20%水和剤200倍希釈)に瞬時浸漬し湿らせたペーパー上に並べ、分生子を綿棒で接種した後、密閉して室温で静置した。接種3日後の病斑の形成状態から感受性を判定し、さらに7日後の黒色分生子塊形成により輪斑病菌と雑菌を判定した。

[その他]

研究課題名：チャトゲコナジラム等に対応した効率的な防除体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2015～2017年

研究担当者：東島敏彦・野中一弥・高木智成・中村典義